

家から始まり家で終わる、レイパーの観光システム

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10139/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

濟州島への旅行を思い浮かべると、たいていは海やオルム（寄生火山）、おいしい店が真っ先に頭に浮かびます。しかしその旅は、家で荷造りをして航空券を予約した瞬間にすでに始まっており、空港と飛行機を経て、再び自宅の玄関ドアを開けたときにようやく終わります。旅行先の一か所だけを見ていては、旅の全体像は見えないわけです。このように観光を出発地から目的地までひと続きの構造として捉える枠組みが「レイパーの観光システム（Leiper's Tourism System）」です。レイパーの観光システムとは、簡単に言えば「観光客、観光客が出発する地域、経由する道、滞在する目的地、そして観光産業という5つの要素が互いにつながり、ともに動くひとつの体系」を意味します。オーストラリアの観光学者ニール・レイパー（Neil Leiper）が、1979年に学術誌『Annals of Tourism Research（観光研究年報）』に発表した論文で提示しました。本資料では、レイパーがこのモデルを作った理由と5つの構成要素、3つの地域がそれぞれ担う役割、そしてこのモデルが今日の観光を理解し管理するうえで与える示唆まで、順に見ていきます。出発し、経由し、滞在する旅の構造、レイパーの観光システム レイパーの観光システムとは何か？ 1970年代まで、観光の定義は学者によってまちまちでした。経済学者はお金の流れから、宿泊